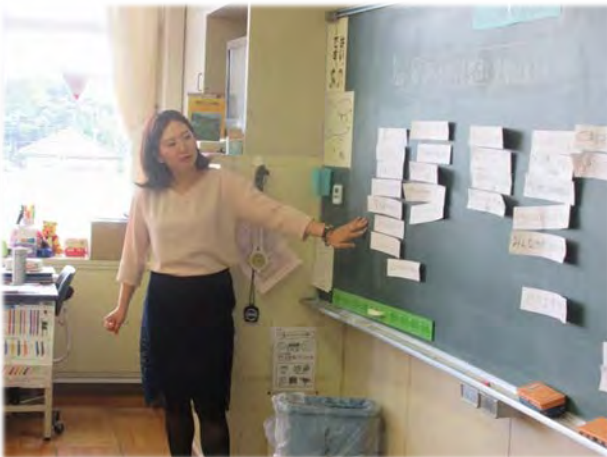


研究主題

自ら学ぶ児童を育むための指導法の追究

～単元を通じた問題解決的な学習の充実を目指して～



新学習指導要領全面実施に向けて

校長 柿崎 洋一

平成から令和へと元号が変わり、私たちは新たな時代へと歩み始めました。グローバル化の進展や急速な技術革新により社会が急激に変化し、予測困難な時代になっていきます。そうした中、私たちが願うことは、子供たちが現在及び将来にわたって、よりよい社会の在り方について主体的に考え続け、様々な立場の人々と協力し、その実現に向けて努力する姿です。校内研究は、そのための授業改善の取組です。

4月から新学習指導要領が全面実施されます。社会科では、「主体的・対話的で深い学び」「見方・考え方の働かせ方」「自分にできることの選択・判断」等いくつかのポイントがあります。授業の実践を通して、帝京大学教職大学院教授 中田正弘先生に丁寧にご指導いただきながら、試行錯誤してきました。しかし、「学習問題を見だし、学習計画をつくる」「学習過程を大切に、単元で子供を育てる」等問題解決的に授業を進めていくことの大切さやその手法が少し分かってきたくらいで、まだまだ入口に立ったばかりです。

「自ら学ぶ児童を育むための指導法の追究」は今後も続きますが、ここに紙面にて中間報告をさせていただき、皆様からご意見、ご指導いただけますと幸いです。

令和3年2月5日に研究発表会の開催を予定しています。新学習指導要領が目指す授業の一端が公開できるよう引き続き教職員一丸となって進めてまいります。



研究構想図

平井小学校の教育目標

- すすんで学び、考える力、決める力、表す力を高めようとする子
- ◎認め合い、支え合い、協力して行動しようとする子
- 心と体に関心を持ち、健康な身体をつくろうとする子

新学習指導要領社会科の目標

見方・考え方を働かせ/課題を追究したり解決したりする活動を通して/公民としての資質・能力の基礎を育成

社会科で育成すべき3つの資質・能力

知識及び技能 思考力、判断力、表現力等
学びに向かう力、人間性等

児童の実態

- ・基礎基本的知識・技能が定着していない。
- ・課題を解決できることで、学習への意欲は高まっている。
- ・自ら考え、自発的に学ぶ児童が少なく、意欲の持続に課題がある。

授業の課題

- ・1時間ごとの課題に迫る教材研究や授業にとどまり、単元を見通して学んでいく授業づくりに至っていない。
- ・知識の獲得が調べて分かることにとどまってしまう、考えて分かることを獲得する深い学びになっていない。

研究主題

研究教科 社会科

自ら学ぶ児童を育むための指導法の追究

～単元を通した問題解決的な学習の充実を目指して～

【めざす児童像】

「問い」と学習の見通しをもち、追究活動をしながらか、自分の考えを表現することができる児童

〈中学年分科会〉

- 地域のくらしは人々の連携・協力で成り立っていることが理解できる児童
- 学習問題の解決に向けて考えたり表現したりする児童
- 学習したことを基に地域社会に関わろうとする児童

〈高学年分科会〉

- 国土・産業・政治・歴史等を自分の生活と関連させて、理解できる児童
- 考えを基に学び合うことを通して説明したり議論したりする児童
- 学習したことを基にこれからの社会について考えようとする児童

研究仮説

単元を通した問題解決型の授業づくりをし、児童の問題意識を高めて、学習計画をつくり、調べて、自分の言葉でまとめるという活動を展開していけば、自ら学ぶ児童を育むことができるであろう。

自ら学ぶ

- 学習を振り返り、何を学んだかを自分で認め、次の課題や学習につなげられる子

研究の内容 〈問題解決的な学習過程〉

つかむ

計画する・見通す

調べる・考える

まとめる

いかす

社会的事象との出会い

学習問題
学習計画づくり

追究して、事実を
獲得する

解決して、考えを
深める

具体的な手だて 〈実践してきたこと〉

- ◇単元を通した問題解決型の授業づくり(学びのプロセス図の作成)
- ◇「なぜ」を導く資料との合わせ方の工夫
- ◇学習環境の整備(学級で共有 授業の足跡が分かる)
- ◇振り返りで学んだことの成果を自覚
- ◇1時間の学習の流れが分かるワークシート・ノートづくり
- ◇4段階(問いの把握・調べて・考えて・まとめる)で学びの質を深める展開



つかむ

疑問や不思議の集約が学習問題(出合いが重要)

- ・問題解決のプロセス図(ラフスケッチ)をつくる。
- ・生活とつながる教材と出合わせる。
クラスの1週間のごみの量
五日市署管内で起きた交通事故件数のグラフ
- ・子供の内面をゆさぶる発問を大切にする。
このままごみがたまっていったらどうなるか

はてなって思うことありますか？



4年 ごみのしよりと利用

学習問題の例

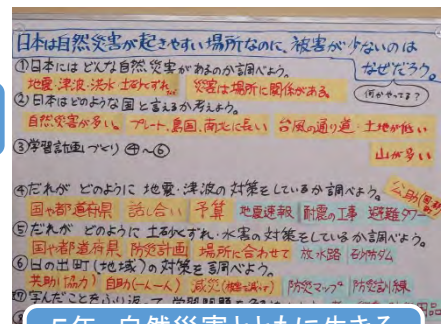
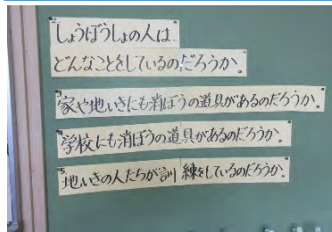
私たちが出しているごみは、どのようにして集められ、しよりされるのだろうか(4年)
 事故から私たちの安全を守るために、だれがどのようなはたらきをしているのだろうか(3年)
 自動車づくりにかかわる人々はどのような思いではたらいているのだろうか(5年)

計画する・見通す

学習問題の予想の集約と整理が学習計画

- ・予想をカードにし、分類して整理しながら、調べることの柱をつくる。
- ・柱をつくと学習の見通しがもて、学級全体で問題意識を高められる。
- ・掲示することで、今どこを学習しているか分かる。
- ・プロセス図の中に問いをしっかりと位置付け、指導者がイメージをもつ。

3年 火事から人々を守る調べることの柱



5年 自然災害とともに生きる学習計画の掲示

調べる・考える

事実を獲得して相互の関係を考える

- ・119番はどこにつながるか、関係図から調べる。警察とセットにして学習すると理解が深まる。(3年)
- ・バーチャル工場見学「誰が、何が、どんな作業をしているかをノートに書く。(5年)
- ・自分と社会とのつながりを実感できるよう工夫や努力を知り、人の営みをとらえる。

119番はどこにつながるのかな。



5年 バーチャル工場見学



タブレットだと繰り返し細かなところが見られるね。

まとめる

学習問題の解決を図り、社会の現実にも目を向ける

- ・学習問題に立ち返り、解決を図るために話し合う。
- ・学習内容を振り返るとともに、自分はどうやって問題解決を進めてきたか、学習方法(学び方)についても振り返る。
- ・ノートや作品を吟味し、修正を加える。
- ・子供の考えを深めるために一つ新たな資料を提示してみる。

「いかす」段階 近未来を考える



増税についてアンケートをとってみました。



6年 国民と選挙権

成果・課題

「自ら学ぶとは一人で学ぶことか」検討が十分にされたか。「疑問の集約」と「予想」は区別しないといけない。社会科は「調べて」「考える」ことが必要、それで見えなかったものが見えるようになる。憶測や伝聞ではなく、「事実・事象を捉え、相互の関係や意味を見いだしていくこと」科学的理解が大切。社会の現実を見つめ、選択・判断できる力を育てるためにフィニッシュ直前の資料が重要。発展とはいえ、単元の内容が生かされることが大切・・・。

講師の中田正弘先生から数々の言葉をいただきました。未熟さを痛感するとともに明日への力としてきました。これまでの成果と課題をまとめました。

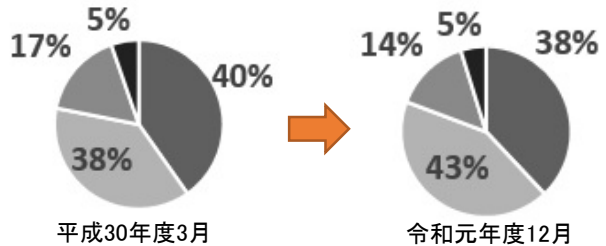
成果

・「社会科の学習は楽しいですか。」という意識調査で、肯定的な回答をした児童が、平成30年度3月は75% 令和元年度12月は79% 「資料を見て、『なぜだろう』『どうしたことかな。』と疑問をもつことができますか。」での肯定的な回答は平成30年度3月は78% 令和元年度12月は81%という変容が見られた。このことから、児童が自分たちで学習問題や学習計画を立てたことで、社会科の学習への意欲が高まったことが分かる。

〈児童アンケート〉

資料を見て「なぜだろう」「どうしたことかな」と疑問をもつことができますか。

■よくできる ■できる
■あまりできない ■できない



・プロセス図の作成は指導者が単元のイメージをもつことができ、問題解決的な学習過程を意識することができた。
・学習計画づくりは、調べる道筋を明確にし、学んだ足跡として残すことができた。教室に掲示する等して定着させたい。

課題

・学習過程の「つかむ(学習問題・学習計画づくり)」の段階では意欲を見せていた児童だが、「調べる」「まとめる」段階になると、意欲の低下が見られた。児童の意識調査でも「学習したことを振り返ったり、自分なりに考えたりして、表現することができますか。」で肯定的回答は、71%にとどまっている。このことから、「調べる」「まとめる」の段階での問いの立て方や資料の追加資料の提示の仕方など、さらなる手だてを考えていく。
・1時間の学習の流れである4段階(問いの把握・調べて・考えて・まとめる)が定着していない。指導者の板書計画や子供のノートづくりに起因する。板書計画やノートづくりの工夫について共通理解を深め、さらに進めていく。
・学びが深まるよう「見方・考え方」をどのように働かせるのか、そのための指導者の関わり(発問・指導・助言)がどうあるべきかまだまだあいまい。話し合い一つでもその必要性を指導者も子供も意識することが大切である。

ご指導いただいた先生

帝京大学教職大学院教授 中田 正弘 先生 [年間講師]
文部科学省初等中等教育局教育課程課教科調査官 小倉 勝登 先生 [講演会]



中田正弘 先生



小倉勝登 先生



主体的な協議会

研究に携わった教職員

[令和元年度] ◎研究主任 ○研究部

校長 柿崎洋一 副校長 津山武士

藤沼 俊成 佐藤 雅美 町田あす葉 金丸茉莉子 長山かず子 ○竹西 晴香 木谷 悠樹 ◎平塚万友美 野崎 真紀
○塚原 祥太 大上 兼人 西貝 耕輔 ○北川 和幸 三好佳代子 青野 知子 門澤 崇 堀内智亜稀 栗原 優子
牛島 美穂 高橋 則子 松木 実 吉田 庸子 清水 清美 水谷 春世 木村リミ子 田中 智春 吉田 海

[平成30年度]

神尾 健彦 森田 由紀子 小塩 啓 久家 亮介 木村 美恵 永田 理奈